

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間:2018/08/16~2018/10/05)

1. 勉学の状況

ラップランド大学では教育学部に所属し、半年間（秋セメスター）学びます。フィンランドでは半学期で25~30ECTS（ヨーロッパの単位）、一年間で60ECTS取らなければなりません。単位数は授業時間の長さや回数などで決まっています。3時間×17回の授業もあれば4時間×8回のものもあります。また、日本の大学とは違い、授業は曜日も教室も定まっておらず、イレギュラーで開講されます。そのため、同じ時間帯に複数の授業が重なってしまうこともよくあります。私が履修する授業は、①**The Phenomenon of Globalization & Cultural Diversity** (7ECTS) ②**Survival Finnish** (2ECTS) ③**Teaching Other Languages** (3ECTS) ④**Children's Literature** (3ECTS) ⑤**Phonetics and Pronunciation** (5ECTS) ⑥**Oral Skills** (5ECTS) ⑦**Observation Period Leading to the Teaching Experience** (2ECTS) の7つ（合計27ECTS）です。授業はすべて英語で受けます。

①**The Phenomenon of Globalization & Cultural Diversity**

この授業では、「人類は同じ地球に住んでいる（地球市民）」、「人や文化が違うことはいいこと」という視点を持ちながらグローバル化によって起きた事象や問題をみます。基本的に先生が講義をしますが、ペアやグループでディスカッションをする機会も設けられます。3時間半（休憩20分）の授業で難しい英語で難しい内容を聞き続けるのはとても大変です… 例えば、“It likely that the process of achieving unity will involve phases of intense turmoil, tests and suffering. Is this statement true or false? Why?”といった内容です。周りにはちゃんと意見を言える生徒もいて、自分は理解できずただ聞いてしまっていることもありましたが、先生はとても寛大で講義の途中でも生徒の質問や意見を受け入れてくれます。また授業を休んだり、授業についていけない人のために時間を割いてくれるのでとてもありがたいです。毎回授業内容についての感想や意見を書くラーニングジャーナル（合計8回）があり、最終課題は3、4人で14~18枚のグループレポートになります。

②**Survival Finnish**

せっかくフィンランドに来たのでフィンランド語の授業をとりました。3時間×8回の授業で最終課題はテストです。自己紹介に必要な表現、お店での会話、時計の読み方などを学びました。特徴的だと思ったのは、フィンランド語は人称により動詞の語尾が変わることです。例えば、“asun (to live)”という動詞を用いると、“Minä asun (I live)”, “Sinä asun (You

live)”, “Hän asuu (He / She lives)” のように動詞の語尾が変化します。毎回授業では学んだ表現を用いて受講生と会話をするので楽しい雰囲気です。フィンランド語の授業は他に Finnish for Foreigners がありますが、Survival Finnish の方が簡単らしいです。

③Teaching Other Languages

英語を子どもたち（小学生）に教えるために必要な概念や知識、技術を学びます。先生のレクチャーを受けつつ、ペアワークで、「この方法にはどんな意味があるのか」、「どのような教え方がいいか」といったような分析やディスカッションもします。実際に先生たちが子どもたちに教えている映像を見たり、自分が子どもになりきってクイズやゲームをしたり、いろいろな見方。視点でもって授業を受けることができます。教育学専攻ではない私にとっては、何もかも新鮮で取り入れたい情報がたくさんありました。授業は8回あり、そのうち2つはグループでプレゼンテーションと模擬授業をします。

2. 生活の状況

留学生は、寮に住むことになります。Kuntotie（大学から徒歩 50 分、市街地から徒歩 30 分）か Opintie（大学から徒歩 5 分、市街地から徒歩 30 分）のどちらかになると思います。私は大学に近い Opintie になりましたが、Kuntotie は遠くても、自然が豊かでトナカイが見れたり、オーロラが見えやすいなどの利点があります。寮の部屋の中には机・いす・ベッド・たんすがありましたが、他の家具や備品はありませんでした（キッチン・冷蔵庫・電子レンジは共用）。Kuntotie に留学生がリサイクル品を共有するための倉庫があるので、そこからものを借りることができます。私は食器・ハンガー・枕を借りました。現地に着いてから日用品をタダで補えることができるので、日本からわざわざすべて持ってくる必要はありません。市街地に行くと中古品店があるので、借りられなかったものは安い値段で購入することができます。

私は1人部屋2つ、2人部屋1つのアパートメントを私を含め計4人の留学生で住んでいます。フラットメイトの国籍は、ベルギー、スペイン、アメリカです。みんなアクティブな人で、よくバドミントンをしにジムへ行ったり、ナイトクラブへ行ったりします。また、共有したい備品を買うとき一緒に相談をしたり、気を遣ってくれることもあり、とても優しい人たちです。普段から異文化に触れるなど毎日飽きることがなく、快適に一緒に過ごせています。

私たちのアパートメントは他のアパートメントより広く、夜になるとたくさんの留学生が集まって会話をしたり、トランプをしたりして遊んでいます。留学に行く前は、「アジア人はアジア人と、ヨーロッパ人はヨーロッパ人と、といったように地域ごと、または国ごとに留学生のコミュニティーができる」という話を聞いていましたが、そのようなことは

なく、様々な国から来た留学生と分け隔てなく話をしたり、大学で食事をしたりしています。平日も休日も留学生と交流する機会がたくさんあり、人脈を広げることができました。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間:2018/10/06~2018/11/05)

1. 勉学の状況

10月に入ると新しい授業が開講され、一番授業の多い時期になります。同時にフィンランド内や他の国へ旅行する学生のための様々なイベントができました。授業を休んで旅行する学生もたくさんいます(もちろん教授も承認)。

③Teaching Other Languages

フィンランドの学生2人と一緒に最終課題のプレゼンの準備をしました。プレゼンでは、デジタル教材を用いた英語の教授法の説明と実演をしました。授業で学んだ知識と、実際に教育現場にどう応用するかという視点も取り入れながら作り上げました。模擬授業も一緒に練習する予定でしたが、スケジュールが合わず結局自分一人だけでしたことになりました。模擬授業では、受講生を小学生として見立て、簡単な英語と母国語の単語を教えます。私は交通手段をトピックとして、乗り物を紹介しました。一人だけで心細く、やっていけるか不安でしたが、自分ですべて計画した達成感があり、とてもよい経験になりました。

④Children's Literature

授業が始まる前に児童文学を読み、授業の前半では受講生で物語の感想や意見を共有し、後半は先生からの説明や見解があります。テーマは、シンデレラ、神話、プーさん、パディントン、不思議の国のアリス、絵本などです。毎回先生が物語とともに質問(「キャラクターの描かれ方はどうか」、「この場面はどういう意味が込められているか」など)が配布され、その質問をもとにディスカッションをします。シンデレラの授業では、3つのバージョンのシンデレラの中から1つのバージョンを読み、相手にストーリーテリングをし、他のバージョンを聞いて共通点と相違点を探ることをしました。

⑤Phonetics and Pronunciation

英語の発音の仕方、発音記号の書き方、音声の性質などを学びます。留学生は私しかいなく、あとはフィンランドの学生が5人という少人数の授業です。そのため主にフィンランド人の発音の問題について話が上がります。/p/と/b/や/s/と/z/の区別ができないなど、日本人にとって馴染みのない話を聞いていて興味深かったです。もちろん日本人の問題、/r/と/l/の区別、/th/の発音の仕方などについても指摘してもらいました。教員志望の学生が集

まっているので、発音を生徒に教える方法を学び、自分たちもたくさん練習します。

⑥ Oral Skills

とにかく英語を話す授業です（笑）。最初の授業では、パートナーを変えながら1時間ぶっ通しで英語で会話を続けることをしました。こんなに英語でしゃべったのは初めて思うくらい疲れましたが、話題が絶えることなくとても楽しいアクティビティーでした。他にも、世界の教育システム、緊張をほぐす方法など様々なトピックがあり、自分で調べてきたものを英語で紹介します。最近、英検や IELTS のような英語の口頭試験（とはいっても結果がどうあれ授業の成績には含まれない）に挑戦しました。試験官1人、評価をする人1人、スピーカー2人で15分のテストが終わったら交代します。また、この授業は教育学部の授業として開講されているので、どのようなスピーキングテスト（内容・時間・評価の仕方など）が英語の授業で使えるかについてディスカッションもしました。たくさん会話をし、単語も覚えるので、少なからずとも英語力がアップすると思います。

2. 生活の状況

10月の初めに初雪が降り、風が冷たく日も短くなりました。フィンランドに来たときは白夜で5時~21時まで日が昇っていましたが、いつの間にか暗い時間の方が長くなっていました。

大学はラップランド地方のロヴァニエミという都市にあります。大学周辺は自然に囲まれ、広大な川や池があります。秋の時期は紅葉がとてもきれいです。暇なときは自転車で周辺を散策しています。市街地にはショッピングモール、映画館、パブなどたくさんのお店があります。フィンランドでは、どこでもクレジットカードでものが買えます。学生会がナイトクラブのチケットを大学で販売していた時も、クレジットカードリーダーを使用していたことには驚きました。市街地は町の中心でもあるということで、たくさんの人で賑わっていると思っていましたが、休日ですえあまり人を見かけませんでした。ロヴァニエミでは、雪が降り始めると外国からたくさんの観光客が来るそうです。

毎週火曜日 **Café Lingua** というものが市街地のカフェで行われます。**Café Lingua** とは、フィンランド語・中国語・スペイン語・ロシア語・英語・日本語・韓国語・フランス語・イタリア語・ドイツ語といったたくさんの言語があり、国やその言語に興味がある人が集まって（その国の言語を用いながら）会話をするイベントです。各言語2週間おきで開催されています。私は日本語の **Café Lingua** に参加し、他の日本人留学生がリーダーを担当してくれています。日本語を理解できる留学生がほとんどいないため、日本語と英語を織り交ぜながら話していますが、毎回10人程度で日本の文化、お菓子、アニメ、方言の違いなど様々なトピックで和気あいあいと会話を楽しんでいます。また、日本語を学びたい学生も

おり、私は個別で日常会話や簡単な単語を教えています。

外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間:2018/11/06~2018/12/05)

1. 勉学の状況

11月になると授業数が落ち着き、レポートやテスト勉強に費やせる時間ができました。学期は12月15日までですが、私は11月30日にすべての授業が終わりました。

④Children's Literature

児童文学の授業は、毎回渡される物語の他に英語の本を2冊を読み、それぞれ2~3枚のレポートと、1冊選んでプレゼンをしなければなりません。大学の図書館と市内の図書館では英語で書かれた児童書の数が少なく、オンラインで2冊購入しました。100ページ程度のものや絵本でもよかったのですが、洋書を読み始めるいい機会だと思い、200ページにも及ぶ興味のある本を選びました。自分にとってはチャレンジングなページ数でしたが、辞書を何度も引きながら読み切ることができました。先生は発音学の授業や、私は受けていませんが、英文法の授業の先生でもあり、レポートを提出したらフィードバックや文法の誤りの修正をしてくれるのでありがたいです。

⑤Phonetics and Pronunciation

ずっと発音学の授業でしたが、イントネーションについても学びました。どのようなときに Sentence Stress (アクセント) がつくか、どのような単語に Strong Form & Weak Form (強く言えたり弱く言えたり) があるかを勉強します。この授業ではよくカテゴライズによって得た知識を可視化をするので、情報が整理され復習がしやすいです。ただ情報量が多く、資料がプリント 100 枚くらいになりました。最終課題はテストでしたが、3時間という長丁場で、書くことも多くなんとかやり遂げました。

⑦Observation Period Leading to the Teaching Experience

フィンランドの学校の雰囲気や先生の教え方について知りたく、10回小学校で英語の授業を観察しました。フィンランドでは英語の授業は3年生から始まり、習い初めて3か月で疑問形を学んでいて、発音よく話す子どもがたくさんいて驚きました。にぎやかなクラスもあれば、落ち着いたクラス、積極的なクラス、消極的なクラスもありました。フィンランドの生徒は基本的にシャイであると言われ、日本人と似ているところがあります。先生は電子白板を使用しながら子どもたちに教えていました。教科書の内容がそのままデジタル教材になっており、ゲームをしたり音声を聞いたりすることが可能で、ICTを有効活用

しているなと思いました。見ていておもしろいと思ったのはテストでした。フィンランドでは宿題やテストがほとんどありません。日本では授業丸々使ってただひたすら生徒が書き続ける形態ですが、フィンランドでは先生がクエスチョンごとに「これを書いて、次はこれを書いて」と指示を出していました。テストが終わって解答用紙を回収したあと、すぐにテストの回答を子どもたちと一緒に確認します。このような方法もあるんだなととても関心しました。

2. 生活の状況

太陽が 10 時から 14 時までしか昇らなくなりました。天候が悪い時は太陽が全く見えません… 一日中暗い時期に入ってしまったのですが、今年は例年より雪が積もる時期が遅いと言われ、11 月に入ってから数回しか雪が降っていません。帰国まで残り 1 か月しかないので、せめて雪で覆われたきれいな景色を見て帰りたいです。

11/22 はアメリカで感謝祭の日だったので、アメリカの留学生が寮の地下で感謝祭パーティ催してくれました。パーティに参加する人は自分たちの料理を作ってふるまっていました。私は日本から来た留学生と一緒に肉じゃがを作りました。七面鳥やマカロニ&チーズ（アメリカの留学生）、羊肉の蒸し焼き（アイルランドの留学生）、ピザ（イタリアの留学生）などたくさんの料理が出され、国際色豊かな感謝祭になりました。寮の地下には洗濯機やサウナの他に、ロビーのような広い部屋があります。私が住んでいる建物では 10 月から使えるようになり、ソファやテレビが設置されています。最近はビリヤード台が入荷され、建物に住んでいる留学生の集う場所となっています。

ただ寮に住んでいるのはラップランド大学の留学生だけではなく、現地の人も住んでいます。サウナはフィンランドの大切な習慣であるためか、地下のサウナには予約がいっぱいであまりサウナを浴びる機会がありません。そこで私は、授業を一緒に受けたフィンランドの学生に家に行ってサウナを浴びさせてもらいました。コーラを片手に 10 分サウナに入ったあと 5 分外の冷たい風を浴びるのを 3 回繰り返しました。フィンランドでは家やアパートにサウナがつくのは当たり前で、公衆サウナはほぼどこでも無料だそうです。一人で浴びたり、家族や友達と浴びたり、リラックスするためには欠かせない習慣で、多い時は 3、4 時間入るそうです。留学生と一緒に過ごすことが多いですが、現地の学生と話すことも貴重な経験でした。